

## 自動車開発が未来を変える 想像力のあるエンジニアを養成中

「将来は自動車を考える人になりたいです」。そう話してくれたのは、帝京大学理工学部3年生の阿部司さん。彼が学んでいるのは機械・精密システム工学科のオートモビル・テクノロジー・コース。自然豊かな宇都宮キャンパスにある実習用施設には、フェアレディZなどの実車や整備診断装置の数々が揃い、自動車の開発エンジニアを目指す学生たちが集まっています。「実習ではお揃いのブルーのつなぎを着るので、気持ちがピリッと引き締まります。実際の開発現場と同じように、数人でチームになり課題に取り組むのですが、みんな車が大好きで、学ぶ意識も相当高い。工具の使い方など慣れないことも多いのですが、好きだから本当に面白いです。どんどん夢中になっています」。このコースは、二級ガソリン自動車整備士の国家試験受験資格が取得できるのも特徴で、講師陣は実際にメーカーで開発に携わってきた、その道のプロばかり。実習を担当する反町先生は、自動車開発を学ぶ一番のポイントは自分から疑問を持つことだと言います。「教えている学生たちから感じるのは、勉強し覚えることと捉えがちなことですね。

それは今の受験勉強を考えると当然のことだと思えますが、開発で必要なのは、なんといっても想像力。実習ではそれを実感できるように課題を出しています。最初はみんな戸惑いますが、仲間同士で相談しあったりするうちに、考える力や想像する力が身につくようになります。人の英知が生んだ仕組みを味わい、過去からの積み重ねに思いを馳せること。例えばエンジンを分解する実習では、各部品がなぜその形になったのか、どうして動くのかと考え、疑問を持つことが大切なようです。奇しくも阿部さんが口にした「自動車を考える人」という言葉。教える側の思いが、しっかりと伝わっているのかもしれない。「卒業後は自動車の未来像を考え、開発できるようにしたい。まだまだ基礎を学ぶ段階で、そこまで辿り着いていませんが……」。現在、全世界で8億台以上もの自動車が走っているとされています。そして、そこに常につきまとうのが、石油を大量消費し、有害な排気ガスを生むという自動車の環境問題。世界中のエンジニアが、ハイブリッド車や燃料電池車、バイオエタノール車など、さまざまな取り組みに挑戦しています。「自動車を考える」ことで、世界を変えることができる。そう信じる学生たちが、日々、切磋琢磨しています。

feel TEIKYO 

あなたにつながる帝京大学 撮影・今城 純



帝京大学 本部大学PR推進室  
TEL.03-3964-4162  
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします

帝京大学のあれこれを充実のコンテンツと心地よい写真で紹介する冊子「feel TEIKYO」を配布中。特別付録は大宮エリーさんの書き下ろし小説です。請求先 → [post@med.teikyo-u.ac.jp](mailto:post@med.teikyo-u.ac.jp) (本部大学PR推進室)